

サツマイモ掘りの絵を描こう

今年も子どもたちみんなでサツマイモを掘りました。収穫したサツマイモを子どもたちみんなで数えたら、120個もありました。花壇のように細長くて小さな畑ですが、毎年ちゃんとおいしいサツマイモができます。その次の週、子どもたちは、サツマイモ掘りをしたことを絵に描きました。

年少組の子どもたちは、一人ひとり自分の画用紙に大きくサツマイモを描きました。

子どもたちは、ひげのような根っこをいっぱい描いていました。実際に畑の土の中から自分の手でサツマイモを掘ってみて、スーパーで売っているサツマイモとは違い、ひげみtainな根っこがいっぱいあることに気がついたのかもしれませんが、「体験」したときに感じたことや気がついたことを絵に描いて表現することで、それはその子の「学び」になっていきます。

年長組の子どもたちは、大きな模造紙にグループごとにサツマイモ掘りの様子を描きました。

「白い幼虫がいたよね・・・」とか

「ここには、何をかく?」「空は何色にする?」などと友達といろいろな話をしながら、一つの絵を完成させました。グループの友達と「こうだったかな? ああだったかな?」と話しながら、振り返り、試行錯誤することで、子どもたちの「学び」は深まっています。

身体を使って「体験」したことは、言葉にしたり、絵に描いたりして、表現することで、「経験」へと変わり、その子の「生きた知識」になっていくのだと思います。

「人間は、記号が身体、あるいは自分の経験に接地できていないと学習できない。」とされています。(今井むつみ、秋田喜美『言語の本質』2023 中央公論新社)

「学び」には、記号、つまり言葉が「経験」につながっている必要があるという意味です。

これからも、活動したあとの「振り返り」を大切にしていきたいと思っています。

